機甲戦記(仮題)

nakumoto

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また

機甲戦記(仮題)【小説タイトル】

Z コー ド】

【 作 者 名】

n a k u m o t o

戦場に居る一人の少年【あらすじ】

彼はこれからどのように生き、

戦場で活躍していくのだろうか。

出会い (仮題) (前書き)

ſΪ 予備知識もないので矛盾が生まれるかもしれませんがご了承くださ これはほんの思いつきで書いたものであり続くかどうかわかりません

2

出会い (仮題)

プロローグ

技術の進歩は一体何に引き起こされるものだろうか。

偉大な科学者の発明?先端技術の解明?研究の成果?

どれも違う。

人類の技術の進歩とは戦争によって作り出されたものだ。

いかに人を効率よく殺すか、そして味方の被害を最小限に敵の被害

を甚大に。

すべては戦争のため、 争いのため、軍事力のため。

技術の進歩というのは戦争から生まれたものである。

第一章

戦場の風

ここはどこだろうか。

いや、そんなことはどうでもいい。

俺の名前は・・・?

いや、名前など必要ない。

ここにいる目的は?

敵を殺す、それだけだ。

ヒュー ドオオオオン

地鳴りと土煙が舞い砲弾が落ちてきた

恐らく敵の野砲だろう。

あるいはミサイルか

とりあえず一箇所に留まるのは危険だ、 移動しよう。

俺は持てる装備を持って空き家から出た

武器はアサルトライフルにハンドガン

そしてロケットランチャーがあるが、 弾は2発しかない。

おまけにこいつは重くてかさばる、 これは置いていこう。

左右の腰には長めのナイフが1本ずつ計2本差してある。

やはり、こいつらが一番扱いやすいな。

俺はにやりと笑みを浮かべた。

銃を撃つのもいいがやはりナイフが一番いいと自分では思っている。

とりあえず西にでも向かおう。 そう決めて路地を出たときソレに見

つかってしまった

ソレは身の丈約15,6メートル

足があり、 手もついているが頭はなく、 代わりに装甲板で覆われた

操縦席がある

元々は作業用ワーカー だっ たものを改造し両手に機関砲を装備し、

肩にはロケットランチャー が付いている

やばい、 こり つはやばい のに出くわしてしまった。

戦車より安価で改造しやすくなにより機動性が 61 ίÌ (戦車より)

通称、機甲兵器。

ı

最初は極東の地で開発された

画期的で斬新かつ機動性に優れ安価で操縦も容易い

作業効率も従来の倍はよくなる。

そんな夢の重機。

その構造を他の国は黙って見ているわけがなかった。

原理を研究し、 技術を盗み、 真似して兵器へと変えていった。

そして戦争は変化した

I

さっきのランチャーを持ってくればよかったと後悔したが、 そんな

考えは吹き飛んだ。

目の前にいるとはまたもう二機後ろから近づいてくる。

機銃がこちらを向く

走った、全力で

武器も装備も邪魔だ

ガガガガガガガガッガガガッガ

狙いがあまい?いや、 違うな楽しんでいるのか。

人間狩りを・・・。

余計たちが悪い

逃がしてくれはなさそうだ

なんとか狭い路地に逃げ込めば・・・-

パシュッ !ヒュー ウウウウウウ

嫌な音が後ろから聞こえた

んだ 爆発が起きる瞬間、 俺は無意識の内にありたっけの力を足にこめ跳

そして意識を失った

PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 ています。 の縦書き小説 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 タイ の いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n3512z/

機甲戦記(仮題)

2011年12月11日23時49分発行